

理事長 日高 義博

新年のお慶びを申し上げます。2020年は、コロナ禍の中で日常的な営みもままならぬ1年でありました。3月の卒業式も4月の入学式も中止となり、新型コロナウイルス感染を防止するため、オンライン授業を展開せざるをえませんでした。本学では、東日本大震災の経験を踏まえ、早急に「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援奨学金」(学費減免支援制度)を設け、2年間継続する対応を講じました。また、校



景さえも見ることもない1年でありました。一日も早くコロナ感染が収束し、キャンパスに活気ある光景が戻って来ることを願っております。

昨年9月16日には、靖国通りの新校舎「140年記念館(神田10号館)」において、専修大学創立140周年記念式典を挙げて行いました。コロナ禍の中

更なる活性化と発展へ尽力

での式典でありましたので、規模を縮小し、時間も短縮しました。創立150年に繋ぐべく式典を行えたことは、皆様のご理解とご支援のおかげです。重ねてお礼申し上げます。20年度内に140周年記念事業によるキャンパス整備、学部移転、学部改組、新学部の設置等を完遂で

必要があります。法改正に伴い事業に関する中期的な計画の策定が求められています。本学では、中期計画の期間を5年としていきますので、改正法の下、創立150年までには、2回の中期計画を策定することになります。しかも、中期計画の策定に際しては、大学進学者数が激減す

が続きそうです。これからはオール専修の力を結集し、創立者たちの高等教育に対する熱き思いを次の世代に繋いでいく覚悟が必要で、今年の干支は「丑」です。財政状況をはじめ諸事厳しくなっています。牛の歩みの如く、確かな足取りで一歩ずつ打破していきたいと思います。

間もなく入試シーズンに入ります。専修大学では、志願者数5万人を目標として準備を進めておりますが、コロナ禍の中での入試となりますので、予断を許しません。石巻専修大学では、東日本大震災の苦難を乗り越え、現在、入学定員を満たすためさまざまな施策が講じられています。尾池守学長の指揮の下で新設される経営学部情報マネジメント学科は、初めての入試となります。志願者数は、い

わば大学の心臓の鼓動でありま

すので、力強い脈動となることを期待しているところです。明るいニュースの一つは、専修大学の陸上競技部が予選会で出場権を獲得し、箱根駅伝に復帰したことです。創立140周年の年に箱根駅伝に復帰できたことは、本当にうれしい出来事でした。学生が母校の襷を繋いで走る姿は、やはり心が躍ります。また、石巻専修大学の女子競走部が全日本大学女子駅伝対校選手権大会に連続出場したことも、うれしい出来事でした。今年も、各々がカレッジスポーツにおいて立派な成果を収め、また資格試験・国家試験等においても多数の合格者が出ることを期待しております。文武両道にわたる学生の活躍は、大学評価の指標の一つでもあります。引き続き、ご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。

2021年 年頭所感

学長 佐々木 重人

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本学創立140周年事業プランを練り上げて臨んだ2020年は、コロナ禍の影響で、多くの諸行事を中止にせざるをえないという苦渋の選択の連続のなかで、その幕を閉じました。しかし、本学教職員の努力と学生・保護者の皆様のご理解、そして卒業生の皆様からの励ましのおかげで、本学の教育活動を、大過なく実施することができました。この場を借り

て、すべての皆様に感謝したいと思っております。年頭にあたり、本学における今年の重要課題とその対応について説明したいと思います。

第一に21年度の授業運営についてです。前期は、高品質のオ

四つの重要課題に取り組む

ンライン授業を併用しますが、感染対策に万全を期したうえで、対面授業や学内オンライン授業を受講する学生数を20年度後期に比べて倍増させる方針です。具体的には、1年次生と2年次生は、過当 तरीで、最低でも3日、同様に3年次生は最低

でも2日、そして4年次生は最低でも1日の通学を求める時間割プランを提示する予定です。また、年度初めのオリエンテーション・ガイダンスも例年の倍にあたる2週間をかけて実施します。

今後のオンライン授業の運用は、より挑戦的で積極的な意義を見いだす形で展開されるよう

sとの繋がりを意識した講義や研究を行っておりますが、さらに学生の積極的な取り組みを促す「専修大学SDGsチャレンジプログラム2020」を実施しました。今年、大学組織として、また産官学との連携として行うSDGsにも積極的に取

り組んでいきたいと思っております。

第四は、21年度から導入される拡張性の高いLMS(教育支援基盤システム)についてです。この新システムは、各種の学修支援機能の他に、LINEやレスポンス(授業内アンケート機能)や出席確認機能等を持ったアプリとの連携を図ることができ



なるでしょう。すでに海外の国際交流協定校の教員が現地から発信するオンライン授業や複数大学間(専修大・石巻専修大・ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学)の学生によるオンライン共同ゼミナールといった試みが行われております。後

期も感染状況によりですが、対面授業の割合を前期よりもさらに増加できるように設計したいと思っております。

第二は、30年の創立150周年に向けてのアクションプランの一つとして既に開始されているSDGs(持続可能な開発目標)への取り組みについてです。すでに多くの教員がSDG

第三は、生田・神田両キャンパスのプランディングについてです。コロナ禍の中での教育・経済・文化・生活等、あらゆる面で、インターネット回線の充実の必要性が再認識されました。そのなかで配信され、蓄積される大量のデジタルデータが活用される近未来の社会(ソサエティ5.0)で活躍できる人財を育成することは、本学にとって大きな使命となります。それぞれの専門分野で生かされるデータサイエンスの研究やその知識・技能を修得する拠点ともなるキャンパス(生田データサイエンスヒルズ)の構築や神田神保町からの知と文化の発信拠点となる新学生街(神田神保町カルテラタン)の創造に向けた取り組みを進めたいと思っております。

さて皆様、21年は、「箱根駅伝」のテレビ中継を観て、「伝統に挑戦する」専大チームの応援から始まりました。専修大学は伝統に挑戦し続けます。今年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

『ニュース専修』600号
—— 昭和、平成、令和 52年の足跡 ——

『ニュース専修』(専修大学広報課発行)が、600号を迎えました。1968(昭和43)年5月29日に創刊号を発行して以来、在学生を中心に専修人の活躍を伝え続けて52年。学生、ご父母・保護者、校友、教職員の皆さま方のご支援に心からお礼申し上げます。これからもオール専修の活躍を紹介し続けます。

<p>生田2・3号館完成 第558号 2017(平成29)年</p>	<p>創立130年記念事業 第469号 2009(平成21)年</p>	<p>シンボルマーク・ペットマーク決定 第410号 2004(平成16)年</p>	<p>石巻専修大学開学式 第232号 1989(平成元)年</p>	<p>創立100年記念式典 第121号 1979(昭和54)年</p>	<p>神田1号館竣工 臨増号 1974(昭和49)年</p>	<p>創刊号 1968(昭和43)年</p>
--	---	---	---	---	--	----------------------------

令和 平成 昭和